

# 激痛

(下)

会員 阿久津 俊子

外出先から車を運転して自宅につき、家に入って二分、座る間もない状態で胸が痛みだした。平成22年3月13日のことである。

この痛みは今までに経験した事がない。いったいどうしたんだらう。すぐに今度は背中に痛みがきた。強い力で押さえつけられるような痛みである。

冷や汗か脂汗か身体中から噴出す。キツチンのテーブルに戻り、うつ伏せにしている少し落ち着く。何んだらう、身体の中で何が起きているんだらう、不安になる。

原因もわからずこの痛みだとコンビニ受診にはならないだろう。救急病院に電話す

ると、「今すぐ救急車を呼んで来なさい」と指示された。病院の入口で看護師さんが数名待っていて声をかけて下さった。「先ほど電話してきた人? はいこのストレッチャーに寝て」痛くて横にはなれないという

と、座ったままでいながらと言われ診察室に入った。先生が、「何時から、何処が、どのよう」

と次々と質問してくる中、看護師さんは手際よく、着ているものを脱がせて病衣に取り換えていく。

血圧が異常に高い、痛み止めの注射をしてレントゲンとCTを撮り診察室に戻ってくると、「阿久津さん、原因が解りました。これはちよつと重い病気です

よ。大動脈解離と言った大動脈の内側の血管壁に裂け目が出て、そこから流れ出した血液が中の膜を引き裂いたので痛みが出たのです。心筋梗塞と並ぶ激しい痛みの出る病気だから、血圧を下げながら治療します。このまま入院して絶対安静です」と循環器内科の齊藤先生のお話。

なにがなんだか分からないうちに七階の救急病室に入院した。七階の救急病室にはいろいろな患者が毎日運ばれてくる。病状が安定し四人部屋に移ったとき、いろいろな状態で入院に至った患者さんのいきさつを聞いた。

一人暮らしで気が分が悪くなり倒れてい

たところ、近所の人が見つけてくれて運ばれた人、どれぐらの時間倒れていたのかも判らないという。また糖尿病で定期の診察にきたら、数値が異常で即入院となり、さらに悪化しICUに一週間も入っていたとか、私のように循環器内科の者もいれば、脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病など、重症の人が多かった。

この病院がなかったら、また後一日遅かったら命がなかったと、涙ながらに話した。涙ながらに話し合った。そして、当面の目標は《後五年元気でいようね》と新しい病院仲間と励ましあった。思えば私も土曜、日曜と自宅で我慢していたら大動脈は破裂して手術ということになり大変な事になっていたかもしれないといわれた。

医師の適切な診断と治療、細やかな患者への声かけと指示、また絶対安静の私が食事、沐浴、排泄、何一つ自分で出来ないとき、「良くなるからね、頑張ろうね」と声をかけながら、体を拭いて下さる看護師さん。恥ずかしさと申し訳なさともじもじして

いると、「病気になることは病人をして

た人は病入をして

期母子医療センター、救命救急センターのあるこの病院の大切さを痛感した。確かに北海道内には大きな病院はたくさんある。しかし、札幌まで車で五時間、旭川まで三時間、ドクターヘリの離発着設備もない環境で、赤ちゃんが、子供が、お年寄りが緊急事態に陥った時、いや若者だつて交通事故や災害など緊急事態はやってくる。人の命に地域差があつてはならないと、考えさせられた。

今七十歳これから高齢社会を、この地域で過ごすために、また子供や孫達を病

気から守るために、この病院をはじめ地域の病院の大切さを伝えたいと考えるようになった。

小さな応援団になりたい。大好きな日本ハムファイターズの応援団のように。感謝をこめて。(逢坂)

## 編集後記

病院の野球チームは日赤全道大会で優勝し、今日4日・5日、仙台で行われた「第14回赤十字病(産)院スポーツ大会」に出場。2回戦で昨年の覇者・和歌山医療センターに勝利出来ず、残念。9月28日(日)、大阪の大阪ATCで行われた「eレジフエア2014 in 大阪」の会場に研修係長の姿が。北見日赤のブースで研修医向けの病院説明とリクルートを行っていた。その翌日、懇談に出席戴き、有り難うございました。

本紙、「その後、先生方と」はほんの少しの記事になり申し訳ございません。今回を深耕して、

(仮称)臨床研修医歓迎イベント・Part2「研修と医療人生、北見市民と語る夕べ」を企画しています。(逢坂)